

園児への副食費支援の拡充を

井之川博幸委員が民福委員会で要望

沼田市では3歳以上の保育料が無料化され1年以上が過ぎました。4月からは、新型コロナ感染症問題で、登園自粛などがありました。徐々に平常に戻りつつあります。保育料が無料化されたときに、給食の主食・副食費は無料化されず個別に集金されることになりましたが、低所得家庭(年収360万円未満)や第3子以降は無料(国は、幼稚園では、第1子が小学校4年以上になると、保育部では、第1子が小学生になると無料ではなく、市が補てんして第3子以降全員を無料にしている)になっています。



井之川博幸市議



しかし、県内では、副食費無料化や第2子以降無料化などの「子育て支援」が広がっています。井之川委員は、7月13日に開催された民生福祉委員協議会で、本市においても「副食費(5,000円/月)の無料化」に向けて施策の拡充を求めました。

認定者数・給付費額の増加傾向につづ

沼田市2019(令元)年度介護保険事業の状況

要介護(要支援)の認定者数

(単位千円)

年度	要支援		要介護					計
	1	2	1	2	3	4	5	
元	382	442	675	515	434	391	378	3,217
30	424	477	654	478	417	389	338	3,177



給付費

(単位千円)

年度	居宅サービス費	地域密着型サービス費	施設介護サービス費	特定入所者介護サービス費	高額介護サービス費	高額医療合算サービス費	計
元	2,021,758	1,203,478	1,625,973	194,739	112,442	16,261	5,174,651
30	1,901,035	1,082,788	1,518,923	187,235	99,986	11,992	4,801,959

今年も平和と核兵器禁止願 広島・長崎へ

原水爆禁止国民平和大行進が沼田から渋川へ

原水爆禁止国民平和大行進は、12日の利根沼田網の目行進につづいて16日、沼田=渋川のメインコースが行われ、出発にあたって、テラス沼田1階において市長、議長、教育長の参加も得て、「出発式」が行われました。



沼田市政改革大綱について(3)

さて、人口減少の原因について2点述べましたが、1点は、転出が転入より多いことです。みなさんは、おおむねわかっていると思います。働く場所が少ないのです。特に若い人たちが希望を持って働ける場所がない。働く前段での、高等教育(大学)施設もありません。多くの若者が大学一就職と、大都会に出て行ってしまいます。また、子供たちが都会で生活基盤をつくれば、高齢になった親たちもそこに転居することも増えていきます。それ以上に沼田市に転居してくる人が多ければよいのですが、その魅力が弱いというのが現実です。日本における産業の中心分野は、工業、商業、建設・不動産業です。最近では、サービス業、通信業などが活発です。第1次産業の農業、林業、漁業などは衰退産業です。なぜでしょうか、人間にとって一番大切な食料や住居を確保するための産業が衰退するというのは、どういうことでしょうか。しかし、それが原因で、地方・中山間地が衰退しているのではないのでしょうか。

日本の2018年の食料自給率は37%です。木材自給率は32.4%です。沼田は町の時代から木材の街として発展してきました。農林業が衰退産業から抜け出し発展できるようにすれば、人口減少を止める一つの柱になるのではないのでしょうか。そのためには、どうすれば?ぜひご意見もお寄せください。(つづく)

2020年7月26日 No.980
いのさんニュース
 発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519
 井之川博幸議員活動地域版部内資料